

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第67集

戸坂遺跡群

KUYOUZUKA

# 供養塚遺跡

長野県佐久市大字新子田字供養塚遺跡発掘調査報告書

1999.3

佐久市福祉部児童課  
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第67集

戸坂遺跡群

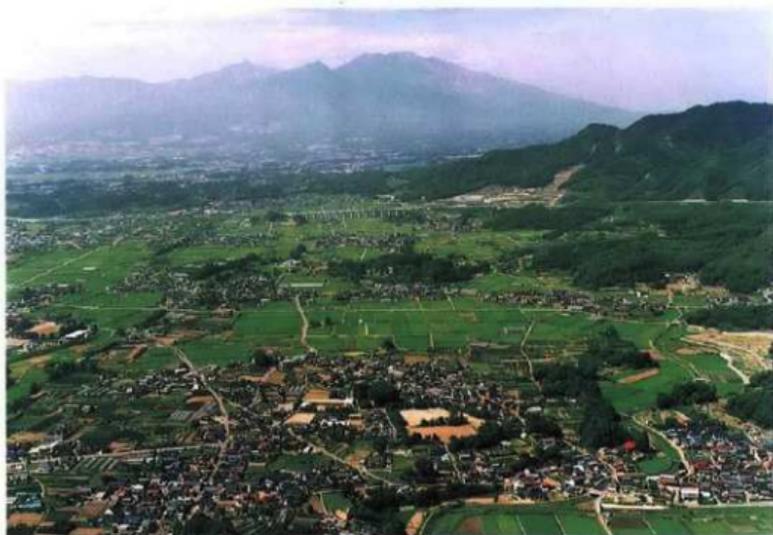
K U Y O U Z U K A

# 供養塚遺跡

長野県佐久市大字新子田字供養塚遺跡発掘調査報告書

1999.3

佐久市福祉部児童課  
佐久市教育委員会



供養塚遺跡遠景航空写真（雨から浅間山を望む）



供養塚遺跡全景航空写真



供養塚道跡全景航空写真（右は四ツ塚道跡1）



H1号住居址全景（南から）



H2号住居址全景（南から）



H 2号住居址かまど



H 2号住居址遺物出土状況

## 例 言

- 1 本書は佐久市福祉部児童課による児童館建設工事に伴う戸坂遺跡群供養塚遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 佐久市大字中込3056  
佐久市福祉部児童課
- 3 調査主体者 佐久市大字中込3056  
佐久市教育委員会 教育長 依田 英夫
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地  
戸坂遺跡群 供養塚遺跡 (TKH)  
佐久市大字新子田字供養塚897-1-877-1
- 5 調査期間及び面積 平成10年7月1日～平成11年3月31日  
調査面積1,200㎡ (試掘1,798㎡)
- 6 本書の報告書作成作業は以下のとおりである。  
遺物洗浄、注記、接合、復元 荒井 ふみ子 小林 まさ子 清水 佐知子 高橋 サチコ  
花尾 四之助 花里 三佐子  
遺物実測・遺構図面修正 小林 百合子 比田井 久美子 細谷 秀子 武者 幸彦  
遺構・遺物トレース 上原 学 武者 幸彦  
遺構・遺物写真、編集、執筆 上原 学
- 7 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡 例

- 1 遺跡の略称 (TKH)
- 2 遺構の略称 住居址-H 掘立柱建物址-F 溝状遺構-M ビットーP
- 3 遺構縮尺 住居址1/80、掘立柱建物址1/120、土器1/4
- 4 遺構の標高は各遺構断面図上に明記
- 5 土層・遺物の色調は1988年度版「新版 標準土色帖」に基づく。
- 6 調査区グリッドは公共座標に基づき大グリッド40×40、小グリッド4×4に設定。

# 目次

巻頭カラー写真

例言

凡例

## 第Ⅰ章 発掘調査の経緯

第1節 立地と経過 .....	1
第2節 調査体制 .....	3
第3節 調査の概要と基本層序 .....	3

## 第Ⅱ章 遺構と遺物

第1節 竪穴住居址 .....	5
H1号住居址 .....	5
H2号住居址 .....	8
第2節 掘立柱建物址 .....	13
第3節 溝状遺構 .....	13

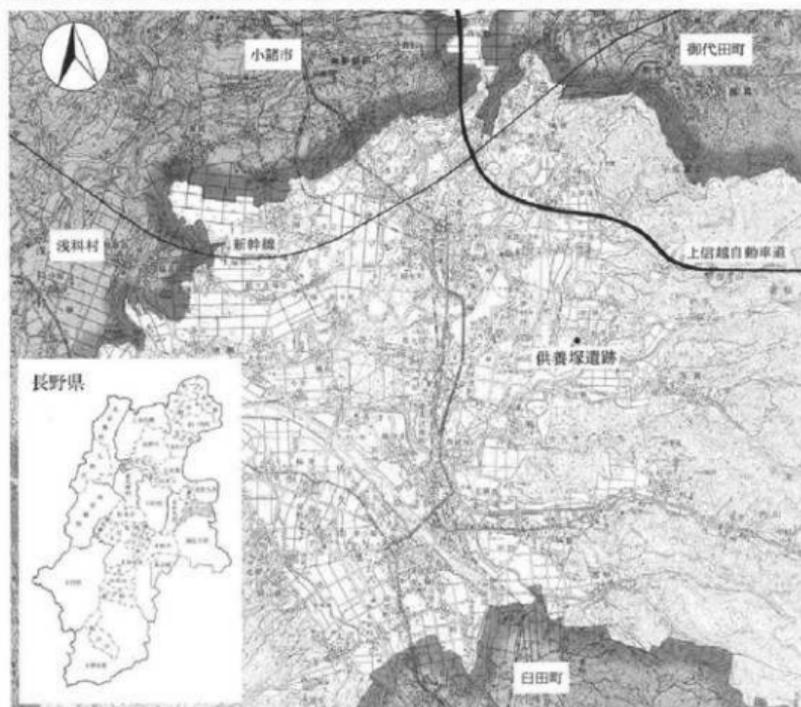
写真図版

# 第I章 発掘調査の経緯

## 第1節 立地と経過

戸坂遺跡群供養塚遺跡は佐久市大字新子田字供養塚地積にあり、西流する香坂川と南流する霞川の合流地点から北に広がる標高705m内外の台地上に位置する。西方には台地を東西に分断する南北方向の田切り（浅間の麓から佐久平に向かって幾筋にも延びる沢）が認められる。また、調査区南東の香坂川及び志賀川に囲まれた低地帯は、現在、その大半が畑地となっているものの、以前は大規模な池が存在していたとされる地域である。

今回、佐久市福祉部児童課による児童館建設工事が行われることとなり、平成10年3月に遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。その結果、古代の住居址の存在が認められたため、記録保存を目的として佐久市教育委員会が主体となり発掘調査を行う運びとなった。



戸坂遺跡群供養塚遺跡位置図 (1:100,000)



戸坂遺跡群供養塚遺跡位置図 (1:10,000)

## 第2節 調査体制

教 育 長 依田 英夫

教 育 次 長 北沢 馨

埋蔵文化財課長(兼)管理係長 須江 仁胤

埋蔵文化財係長 荻原 一馬

埋蔵文化財係 林 幸彦 三石 宗一 須藤 隆司 小林 真寿 羽毛田 卓也

富沢 一明 上原 学

調 査 主 任 佐々木 宗昭 森泉 かよ子

調 査 担 当 者 上原 学

調 査 員 荒井 ふみ子 小林 まさ子 小林 百合子 清水 佐知子 高橋 サチコ

花里 四之助 花里 三佐子 比田井 久美子 細谷 秀子 武者 幸彦

## 第3節 調査の概要と基本層序

1 本調査開始は、平成10年3月に行われた試掘調査の結果に基づく。

2 遺構検出面であるローム土上面までの表土剥ぎは、重機を使用。

3 検出遺構・遺物は以下のとおり。

遺 構 竪穴住居址-2軒 掘立柱建物址-1棟 溝-1条

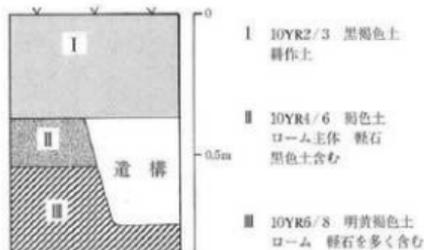
遺 物 土師器(坏、甕、壺、鉢) 須恵器(坏、甕) 鉄製品(刀子)

石製品(砥石、支脚石) 福物石

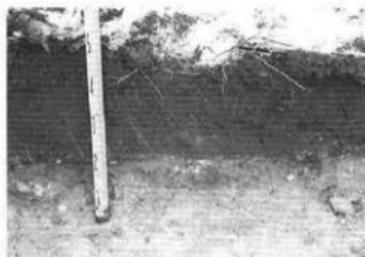
4 調査期間 現場作業-平成10年7月1日~平成10年8月21日

室内整理-平成10年8月24日~平成11年3月31日

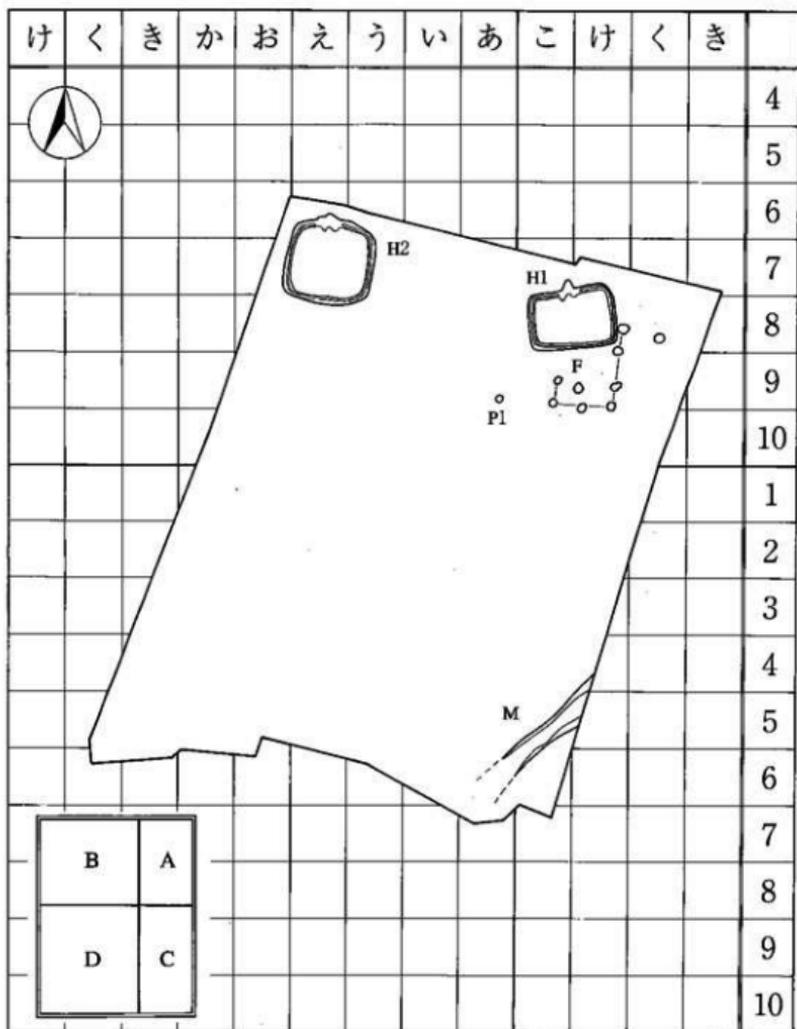
5 基本層序 供養塚遺跡における基本層序は以下の通りである。



基本層序模式図



基本層序

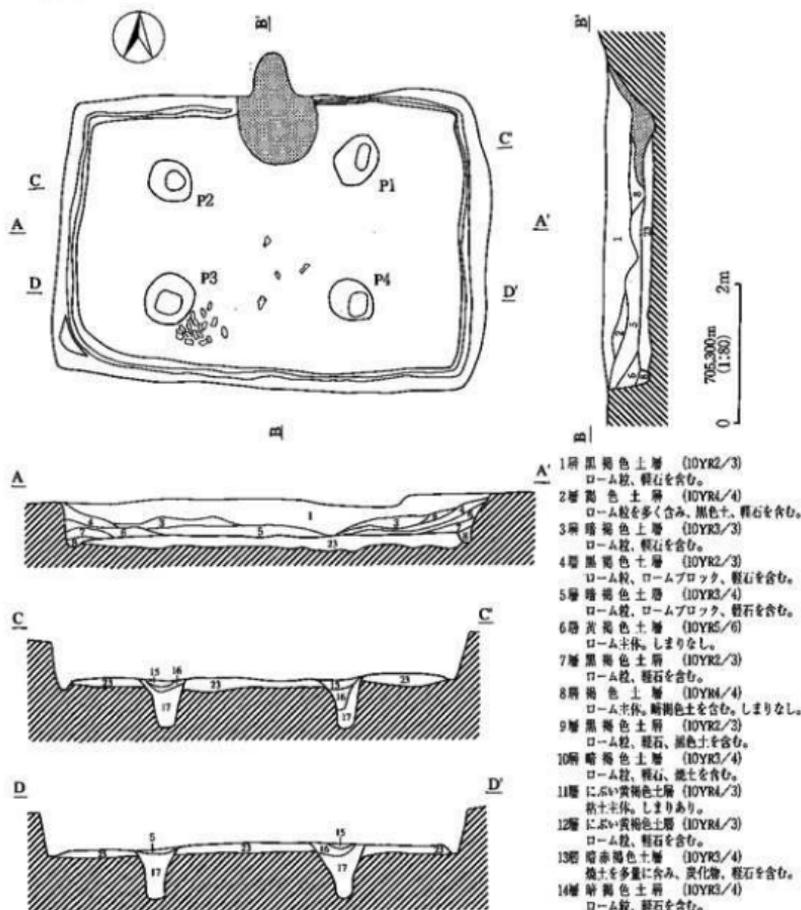


供養塚道跡遺構配置図 (1:400)

## 第II章 遺構と遺物

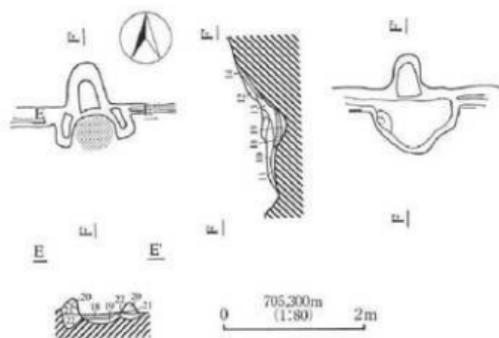
### 第1節 竪穴住居址

#### H1号住居址 (奈良時代)



H1号住居址実測図

- 1層 黒褐色土層 (10YR2/3)  
ローム粒、軽石を含む。
- 2層 褐色土層 (10YR4/4)  
ローム粒を多く含み、黒色土、軽石を含む。
- 3層 暗褐色土層 (10YR3/3)  
ローム粒、軽石を含む。
- 4層 黒褐色土層 (10YR2/3)  
ローム粒、ロームブロック、軽石を含む。
- 5層 暗褐色土層 (10YR3/4)  
ローム粒、ロームブロック、軽石を含む。
- 6層 黄褐色土層 (10YR5/6)  
ローム主体、しまりなし。
- 7層 黒褐色土層 (10YR2/3)  
ローム粒、軽石を含む。
- 8層 褐色土層 (10YR4/4)  
ローム主体、暗褐色土を含む、しまりなし。
- 9層 黒褐色土層 (10YR2/3)  
ローム粒、軽石、黒色土を含む。
- 10層 暗褐色土層 (10YR3/4)  
ローム粒、軽石、燧土を含む。
- 11層 にぎやかな褐色土層 (10YR4/3)  
粘土主体、しまりあり。
- 12層 にぎやかな褐色土層 (10YR4/3)  
ローム粒、軽石を含む。
- 13層 暗赤褐色土層 (10YR3/4)  
燧土を多量に含み、炭化層、軽石を含む。
- 14層 暗褐色土層 (10YR3/4)  
ローム粒、軽石を含む。



- 15層 ぶい黄褐色土層 (10YR4/3)  
ローム粒、軽石を含む。しまりなし。
- 16層 黒褐色土層 (10YR2/3)  
ローム粒、軽石を含む。しまりなし。
- 17層 ぶい黄褐色土層 (10YR4/3)  
ローム主体。しまりなし。
- 18層 明赤褐色土層 (5YR5/8)  
焼土層。しまりなし。
- 19層 黒褐色土層 (10YR2/3)  
焼土、炭化物を含む。
- 20層 暗褐色土層 (10YR3/3)  
ロームブロックを含む。しまりあり。
- 21層 黒褐色土層 (10YR4/4)  
ローム粒、軽石を含む。しまりややあり。
- 22層 暗褐色土層 (10YR3/4)  
焼土、炭化物を含む。しまりあり。
- 23層 ぶい黄褐色土層 (10YR5/4)  
ローム主体。しまりややあり。

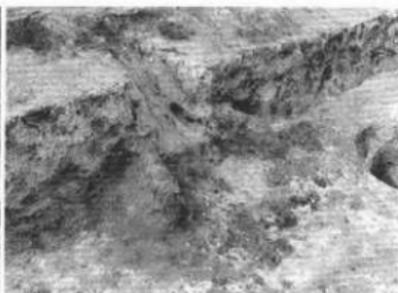
H1号住居址かまど実測図

遺構は調査区の北A-け-8グリッドに位置する。覆土はかまどをのぞき7層である。規模は南北4.08～4.78m、東西5.76～6.16m、深さ0.6m(床面)を測り、平面形はやや東西に長い長方形である。壁はほぼ垂直で壁際には幅16cm、深さ10cm内外の周溝がめぐっている。床は貼床されており全体に堅くしまっている。ピットは支柱穴と思われるピットが4本認められ、いずれも深さ70cm以上の立派なものであった。かまどは北壁の中央に構築されており、両袖の一部及び火床が確認できた。袖は北壁から住居内に40cmほど入り込み、粘土を主な構築材として、火床を挟み込むように残存し、内壁は熱によって堅く焼き締まっていた。火床には多量の焼土が認められた。煙道は火床から緩やかな傾斜で、北壁外約50cm付近に立ちあがる。掘方は床面下全体を15cm内外掘込み、褐色土を埋め込んでいた。

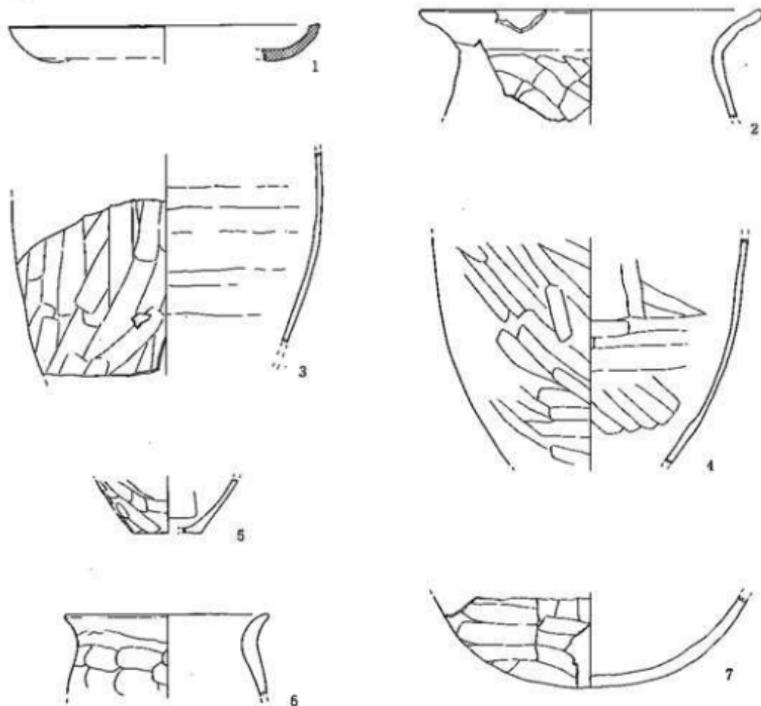
遺物は土師器、須恵器、編み物石等テンバコ1箱出土した。図示できたのは7点である。本住居址は出土遺物の特徴から8c第一四半期と考えられる。(編み物石は写真図版参照)



H1号住居址(南から)



H1号住居址かまど



H1号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	整	残存率%	焼成	色調	備考
1	須恵器	盤?	(22.2)	—	—	底部	ハラケズリ ロクロナデ	口縁・体部の一部	良	10Y5/1 灰色	H2No12 と同・か
2	土師器	壺	(21.0)	—	—	外面	ハラケズリ 口縁 横ナデ	口縁35	良好	5YR6/8 褐色	
3	土師器	壺	—	—	—	外面	ハラケズリ 内面 ハラナデ	胴部のみ	良好	5YR6/4 鈍い赤褐色	
4	土師器	壺	—	—	—	外面	ハラケズリ 内面 ハラナデ	胴部のみ	良	10YR6/6 明赤褐色	
5	土師器	壺	—	4.8	—	外面	ハラケズリ 内面 ハラナデ	底部50	良	10YR6/3 鈍い黄褐色	
6	土師器	壺	(14.4)	—	—	外面	ハラケズリ 口縁 横ナデ	口縁25	良	10YR7/6 鈍い赤褐色	
7	土師器	壺	—	丸底	—	外面	ハラケズリ 内面 ハラナデ	底部のみ	良	2.5YR4/6 明赤褐色	

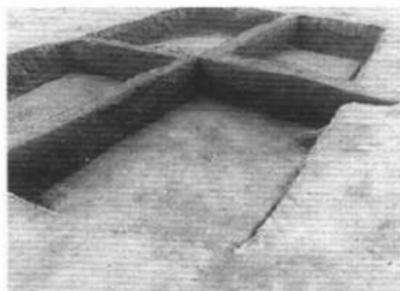
H1号住居址出土遺物観察表



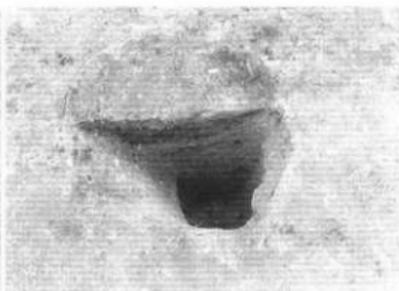
H 1号住居址縦方（南から）



H 1号住居址かまど側方



H 1号住居址（ベルト残り状態）

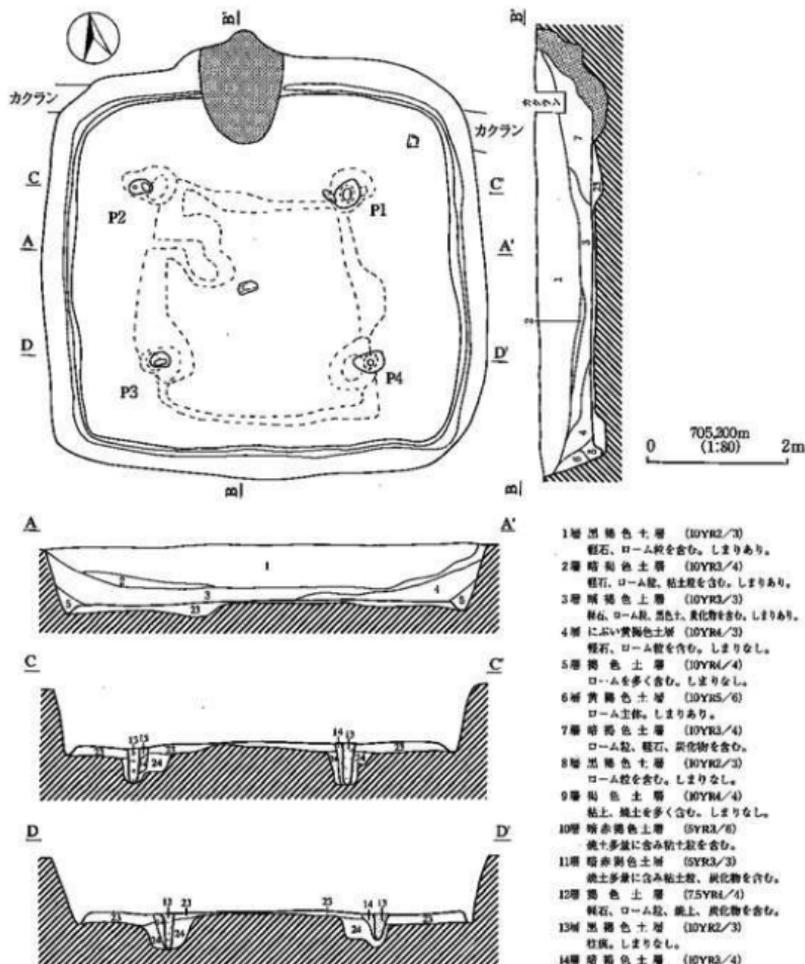


H 1号住居址ビット断面

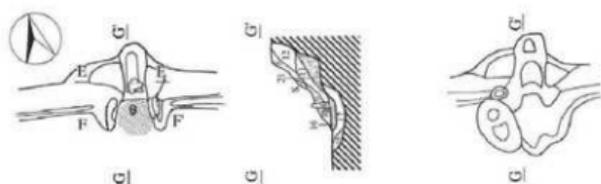
## H 2号住居址（奈良時代）

遺構は調査区の北B-え-7グリッドに位置する。覆土は主に軽石、ローム粒を含む黒褐色・暗褐色土である。規模は南北6.4m～5.6m、東西6.24m～5.84m、深さは0.9m（床面）を測り、平面形はやや隅丸の方形である。壁はやや崩落が認められるもののほぼ垂直に立ち上がり、床面と検出面の比高差約90cmと深い住居址であった。また、壁周囲には幅15cm、深さ13cm内外の周溝がめぐらされていた。床は全面に貼床されており、堅くしまっていた。ビットは床面上で支柱穴と思われるビットが4本認められ、いずれも深さ50cm以上の立派なものであった。かまどは北壁の中央に構築されており、両袖の一部及び火床が確認できた。袖は北壁から住居内に40cmほど入り込み、粘土を主な構築材としており、内壁には扁平な石を壁代わりに利用していた。この石材は熱によって赤く焼け、手で握りつぶせるほど柔らかい状態になっていた。火床には多量の焼土の堆積が認められ、面取りした石製の支脚が使用時と思われる状態で残存していた。煙道は火床から緩やかな傾斜で北壁外約40cm付近に立ち上がり、煙道底面及び両壁面は熱によって赤く焼き締まっていた。掘方は床面中央は浅く壁の周辺ほど深く掘り下げた状態で、4本の支柱穴に囲まれた一帯が台状となっており、覆土は黄褐色土が埋め込まれていた。遺物は、残存率の高いものと

して、かまど西袖先端付近に丸底の土師器坏、かまどの東側に土師器甕、甌、鉢が出土した。このほか覆土内から土師器・須恵器片、鉄製品、編み物石がテンバコ1箱出土した。図示できたのは15点である。本住居址は丸底坏の存在、土師器甕の形態といった出土遺物の特徴から8c第一四半期のものと考えられる。(鉄製品・編み物石は写真図版参照)



H2号住居址実測図



E E



F F



- |     |         |           |                   |
|-----|---------|-----------|-------------------|
| 15層 | 黒褐色土層   | (10YR2/3) | しまりなし。            |
| 16層 | 暗赤褐色土層  | (5YR5/6)  | 硬土層。しまりなし。        |
| 17層 | 黒褐色土層   | (10YR2/3) | 硬土。炭化物を含む。        |
| 18層 | 暗赤褐色土層  | (5YR5/6)  | 硬土層。しまりなし。        |
| 19層 | 暗褐色土層   | (10YR3/4) | 硬土。炭化物を含む。しまりあり。  |
| 20層 | 暗褐色土層   | (10YR3/3) | ロームブロックを含む。しまりあり。 |
| 21層 | 黒褐色土層   | (10YR2/3) | 硬土。炭化物を含む。粘土層。    |
| 22層 | 暗褐色土層   | (10YR3/4) | 粘土。焼けてしまっている。     |
| 23層 | 濃い黄褐色土層 | (10YR5/4) | ローム主体。ややしまりあり。    |
| 24層 | 濃い黄褐色土層 | (10YR5/3) | ローム主体。            |

0 705,200m  
(1:80) 2m

H2号住居址かまど実測図



H2号住居址(ベルト残し状態)



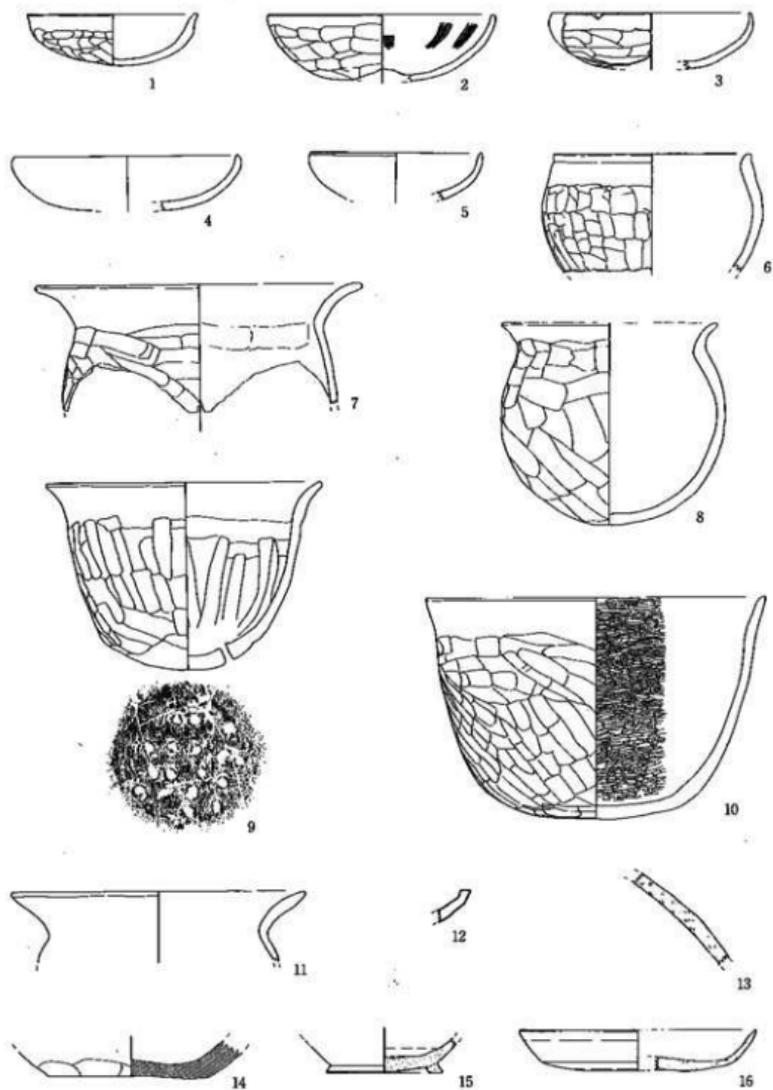
H2号住居址(南から)



H2号住居址かまど



H2号住居址掘方(南から)



H 2号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調 整		残存率%	焼 成	色 調	備 考	
1	土師器	坏	12.0	丸底	3.6	外面 口縁	ヘラケズリ 横ナデ	内面 ヘラナデ	100	良好	7.5YR5/6 灰色	
2	土師器	坏	16.0	丸底	4.2	外面 口縁	ヘラケズリ 横ナデ	内面 ヘラナデ	45	良	7.5YR5/6 灰色	
3	土師器	坏	(14.0)	丸底	4.0	外面 口縁	ヘラケズリ 横ナデ	内面 ヘラナデ	25	良	5YR5/6 灰色	
4	土師器	坏	(16.0)	丸底	3.9	外面 口縁	ヘラケズリ 横ナデ	内面 ヘラナデ	20	良	7.5YR5/6 灰色	
5	土師器	坏	(12.2)	丸底	3.3	外面 口縁	ヘラケズリ 横ナデ	内面 ヘラナデ	15	良	5YR5/6 灰色	
6	土師器	小型壺	(14.0)	—	—	外面 口縁	ヘラケズリ 横ナデ	内面 ヘラナデ	15	良	2.5YR5/6 灰色	
7	土師器	壺	22.8	—	—	外面 口縁	ヘラケズリ 横ナデ	内面 ヘラナデ	口縁30	良	7.5YR5/6 灰色	
8	土師器	小型壺	—	丸底	—	底部	退退ヘラケズリ		85	良好	5YR2/1 黒褐色	
9	土師器	甗	13.3	丸底	19.5	外面 口縁	ヘラケズリ 横ナデ	内面 ヘラナデ	99	良	7.5YR5/6 灰色	底部多口
10	土師器	鉢	24.0	丸底	15.7	外面・底部 口縁	ヘラケズリ 横ナデ	内面 ミガキ	80	良	10YR7/4 黄い黄褐色	
11	土師器	壺	20.8	—	—	外面 口縁	ヘラケズリ 横ナデ		口縁100	良	5YR5/6 灰色	
12	須恵器	盤	—	—	—		ロクロナデ		破片	良好	5GY5/1 オリーブ灰色	H1 No1 と同一か
13	須恵器	壺	—	—	—				破片	良好	7.5YR5/3 オリーブ灰色	自然焼
14	須恵器	壺	—	—	11.4	底部周縁	ヘラケズリ		底部のみ	良好	10Y5/1 灰色	内 自然焼
15	須恵器	壺	—	8.2	—		高台張り付け		底部のみ	良好	10Y5/1 灰色	自然焼
16	須恵器	坏	16.8	7.2	2.8	底部	回転ヘラ切り		30	良好	10Y5/1 灰色	

H2号住居址出土遺物観察表



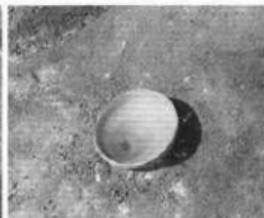
H2号住居址かまど廻方



H2号住居址遺物出土状況

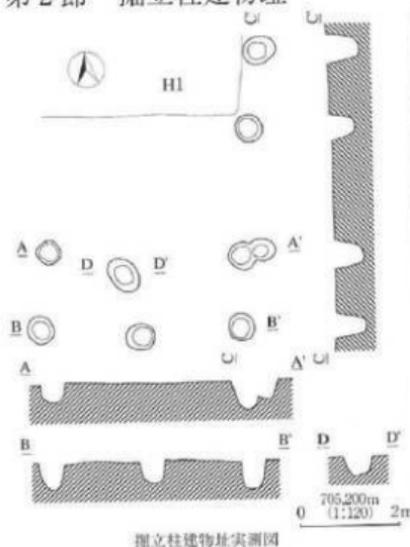


H2号住居址出土刀子



H2号住居址遺物出土状況

## 第2節 掘立柱建物址



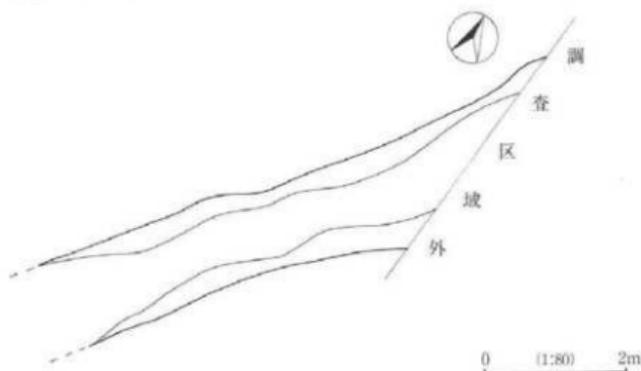
掘立柱建物址

検出位置	形 状	規模(図)
A-A'-6	不明	3×2
ピット形状	ピット規模(直径×深さ)cm	
円形	P1-60×75	P5-82×80
ピット間隔(cm)	P2-54×69	P6-55×66
72-192	P3-51×48	P7-88×67
出土遺物	P4-60×57	P8-55×84

備考

北側は目土に切られる

## 第3節 溝状遺構





試掘状況 (南から)



試掘状況 (H1号住居址検出状況)



調査風景 (南から)



調査風景 (H1号住居址周辺)



H2号住居址かまど



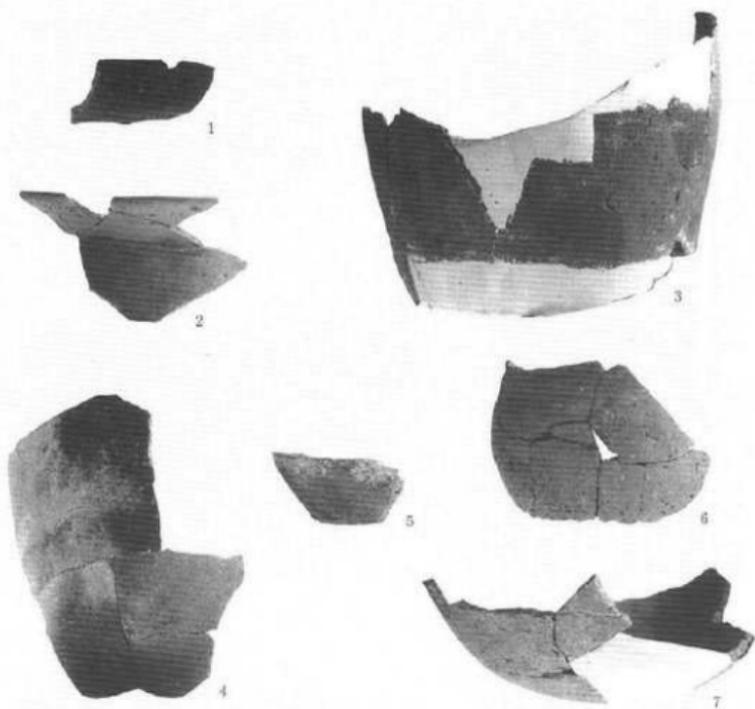
H2号かまど支脚出土状況



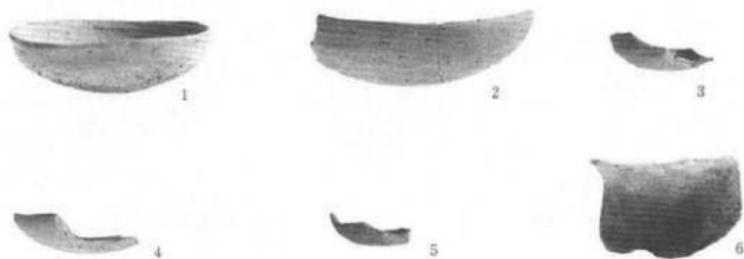
H2号住居址堀方 (ベルト残し状態)



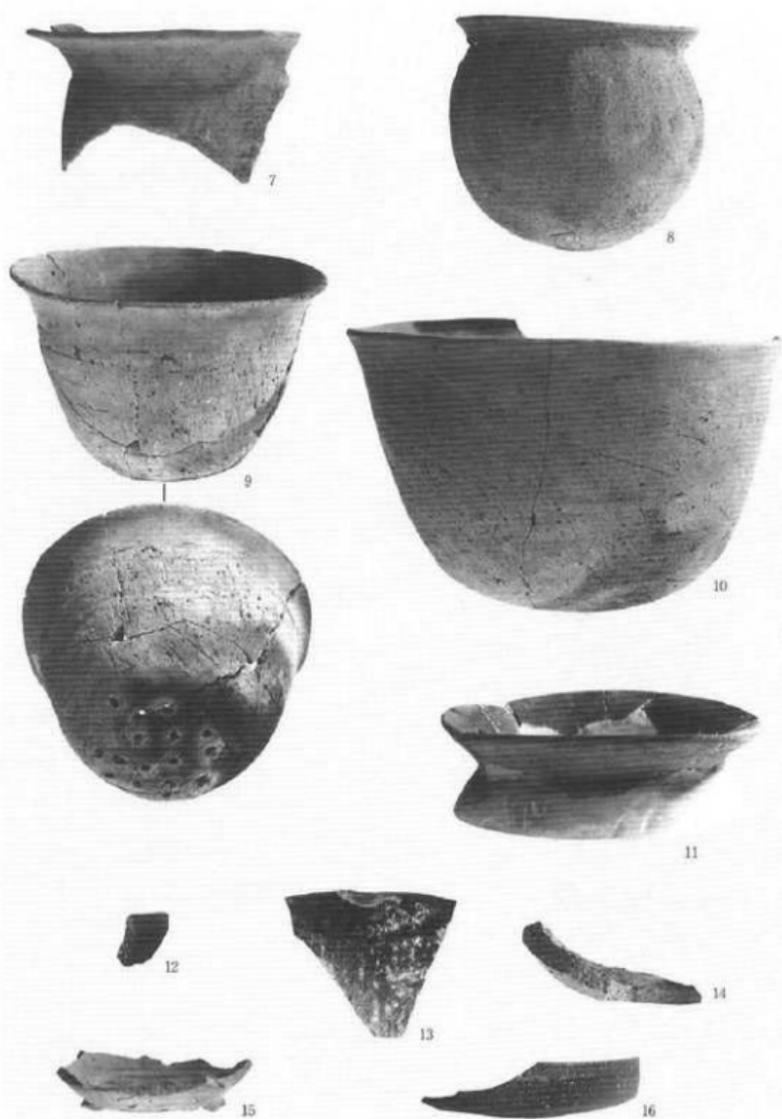
H1号住居址漏み物石出土状況



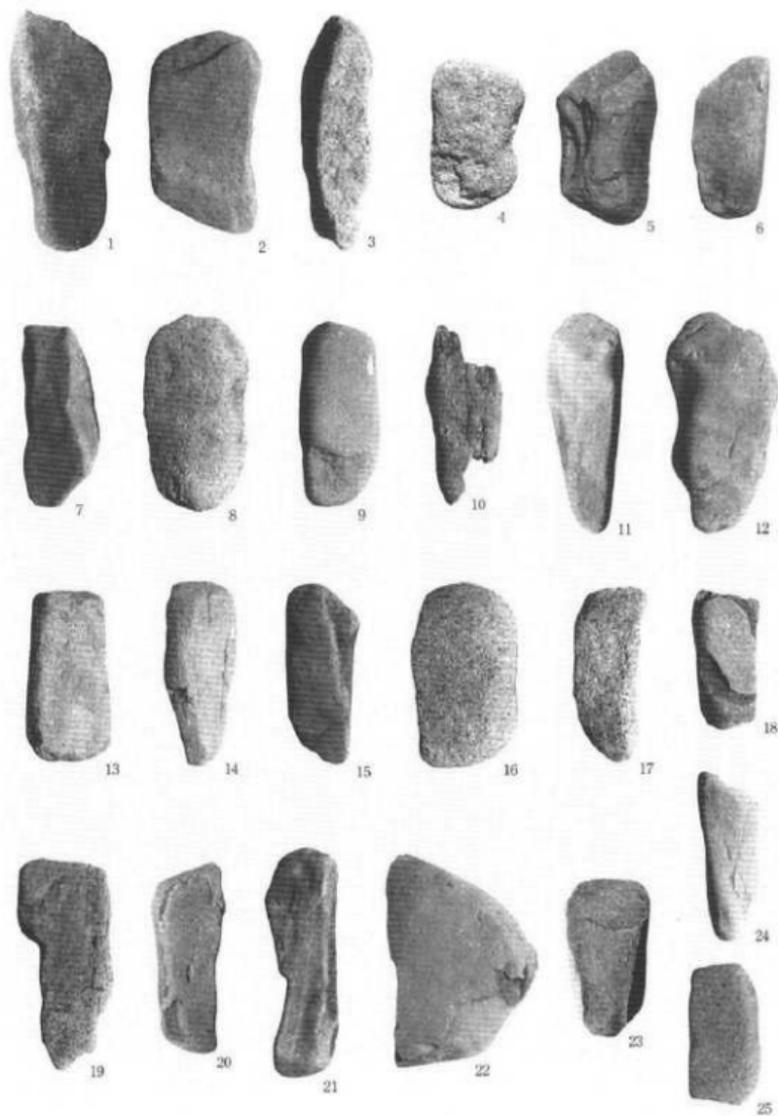
H 1号住居址出土遺物



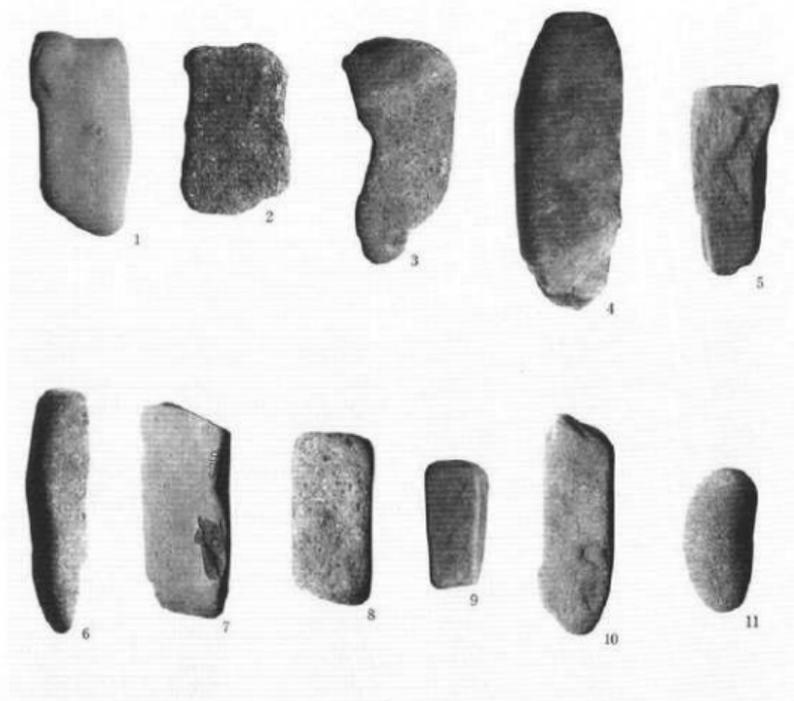
H 2号住居址出土遺物 (1)



H 2 号住居址出土遺物 (2)



H 1号住居址出土燧石



H 2号住居址出土扁平物石



ピット出土砥石

(全体図参照 P 3)



H 2号出土刀子

佐久市埋蔵文化財調査報告書

- |      |                        |      |                       |
|------|------------------------|------|-----------------------|
| 第1集  | 「金井城跡」                 | 第34集 | 「西-本榑遺跡Ⅰ」             |
| 第2集  | 「市内遺跡発掘調査報告書1990」      | 第35集 | 「市内遺跡発掘調査報告書1993」     |
| 第3集  | 「石附宮址Ⅲ」                | 第36集 | 「蛇塚B遺跡Ⅲ」              |
| 第4集  | 「大ふけ」                  | 第37集 | 「西-本榑遺跡Ⅱ・中西ノ久保遺跡」     |
| 第5集  | 「立科F遺跡」                | 第38集 | 「南下中原遺跡Ⅰ」             |
| 第6集  | 「上曾根遺跡」                | 第39集 | 「中屋敷遺跡」               |
| 第7集  | 「三貫畑遺跡」                | 第40集 | 「寺畑遺跡」                |
| 第8集  | 「瀧の下遺跡」                | 第41集 | 「曾根新城Ⅰ～Ⅳ・Ⅷ他」          |
| 第9集  | 「国道141線関係遺跡」           | 第42集 | 「寄山」                  |
| 第10集 | 「順原遺跡Ⅰ」                | 第43集 | 「権現平遺跡」               |
| 第11集 | 「赤塚垣外遺跡」               | 第44集 | 「寺浜遺跡」                |
| 第12集 | 「若宮遺跡Ⅱ」                | 第45集 | 「市内遺跡発掘調査報告書1994」     |
| 第13集 | 「上高山遺跡Ⅱ」               | 第46集 | 「濁り遺跡」                |
| 第14集 | 「架毛坂遺跡」                | 第47集 | 「上芝宮遺跡Ⅴ」              |
| 第15集 | 「野馬久保遺跡」               | 第48集 | 「池端城跡」                |
| 第16集 | 「石釜遺跡」                 | 第49集 | 「根々井芝宮遺跡」             |
| 第17集 | 「市内遺跡発掘調査報告書1991」(1-3) | 第50集 | 「藤塚遺跡Ⅲ」               |
| 第18集 | 「西曾根遺跡」                | 第51集 | 「寺中遺跡・中屋敷遺跡Ⅱ」         |
| 第19集 | 「上芝宮遺跡」                | 第52集 | 「坪の内遺跡」               |
| 第20集 | 「下程端遺跡Ⅱ」               | 第53集 | 「門止坊遺跡Ⅰ」              |
| 第21集 | 「金井城跡Ⅱ」                | 第54集 | 「市内遺跡発掘調査報告書1995」     |
| 第22集 | 「市内遺跡発掘調査報告書1991」      | 第55集 | 「番屋前遺跡」               |
| 第23集 | 「南下中原・南下中原遺跡」          | 第56集 | 「惣原遺跡Ⅰ」               |
| 第24集 | 「上至瑠遺跡」                | 第57集 | 「高師町遺跡Ⅱ」              |
| 第25集 | 「上久保田Ⅳ」                | 第58集 | 「下穴虫遺跡Ⅰ」              |
| 第26集 | 「藤塚古墳群・藤塚Ⅱ」            | 第59集 | 「市内遺跡発掘調査報告書1996」     |
| 第27集 | 「上久保田Ⅲ」                | 第60集 | 「曾根城遺跡Ⅱ」              |
| 第28集 | 「曾根新城Ⅴ」                | 第61集 | 「割地遺跡」                |
| 第29集 | 「山法師遺跡B・筒村遺跡B」         | 第62集 | 「野馬久保遺跡Ⅱ」             |
| 第30集 | 「市内遺跡発掘調査報告書1992」      | 第63集 | 「西大久保遺跡Ⅱ」             |
| 第31集 | 「山法師遺跡A・筒村遺跡A」         | 第64集 | 「梨の木遺跡Ⅱ」              |
| 第32集 | 「東ノ割」                  | 第65集 | 「中宿遺跡」                |
| 第33集 | 「惣原遺跡Ⅳ・下曾根遺跡Ⅰ・前藤部遺跡2」  | 第66集 | 「中西ノ久保遺跡Ⅱ・仲田遺跡・寺畑遺跡Ⅱ」 |

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第67集

戸坂遺跡群 供養塚遺跡

1999年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市大字中込3056

埋蔵文化財課

〒385-0005 長野県佐久市大字志賀5953

TEL 0267-68-7321

印刷所 株式会社 コックス

